

Kapokの資産運用規定

Kapokのwebサーバー
<http://kapok.mydns.jp/>

2015年3月12日

目次

1	はじめに	1	6.6	ポートフォリオの変更	4
2	資産運用の定義	2	7	投資対象・指針	4
2.1	キャッシュ・フローの変換	2	7.1	株式個別銘柄への投資	4
2.2	豊かさの追求	2	7.2	投資信託への投資	4
3	資産運用サイクル	2	7.3	投機的な売買	4
3.1	運用計画	2	8	ツールの利用と開発	4
3.2	売買	2	8.1	Bloombergアプリ	4
3.3	評価	2	8.2	仮想証券取引所の利用	4
3.4	改善	2	8.3	Excelシート・マクロ	4
4	運用の判断基準・評価基準	2	8.4	cernのROOT・PAW	4
4.1	リターン	2	9	禁止事項	5
4.2	コスト	3	9.1	不正な取引	5
4.3	リスク	3	9.2	従業員持ち株会	5
4.4	ケリー基準	3	9.3	日本版401K	5
4.5	比較基準の利用	3	9.4	オプション売り	5
5	運用範囲	3	10	改訂の記録	5
5.1	運用用資産の定義	3	10.1	初版	5
5.2	入金規則	3	10.2	第2版	5
6	ポートフォリオ	3	1	はじめに	
6.1	低リスク資産・リスク資産	3		この規定は、個人投資家である私Kapokが、	
6.2	バリュウ平均法	3		中長期的に有利・かつ安定的な資産運用をとり	
6.3	アセット・アロケーション	3		行う事を目的として作成しました。	
6.4	リバランス方針	3		この規定は2015年3月12日現在のものです。	
6.5	ライフステージとポートフォリオ	4		今後、新たに獲得した知見を基に、必要であれ	

ば柔軟に規定を改訂し、運用の合理性を向上させていきます。

2 資産運用の定義

資産運用の範疇および定義について下記の通り定めます。

2.1 キャッシュ・フローの変換

狭義の資産運用を、「キャッシュの正味の受け取りであるキャッシュ・フロー (cash flow) を有利な形に変換する事」と定義します。

この規定は、この狭義の資産運用についての取り決めとします。

2.2 豊かさの追求

広義の資産運用を、「豊かになるためのキャッシュの出し入れ」と定義します。

例えば知識修得のために現金を支払い本を買う事も、一種の資産運用と考えます。

3 資産運用サイクル

資産運用は下記の4サイクルで構成します。

3.1 運用計画

期待できる運用成果を考え、運用を計画します。情報を集め、運用の精度を高める努力をします。

このステップに、最も重きを置き、資産運用を行います。

3.2 売買

運用計画・方針に従い、望ましいと思えるタイミングで売買を行います。計画・方針と矛盾がないように注意をします。

売買は、ネット証券を利用します。

3.3 評価

運用状況を定性的・定量的に評価し、確認します。問題が発生している場合に、それが検出できる程度の頻度で評価を行います。

原則として、後述する Bloomberg の iPhone アプリケーションを用いて、運用資産の動向の確認を日次で行います。

3.4 改善

運用に修正すべき点があれば、修正を行います。より望ましい運用が行えるように、反省点をまとめ、改善を蓄積します。

4 運用の判断基準・評価基準

資産運用では、リスク・リターン等のパラメータを判断・評価の基準として用います。

4.1 リターン

運用効率の比較基準として、収益率 r (rate of return) を定義します。

$$r = \frac{X_1 - X_0}{X_0} \quad (1)$$

ここで X_0 、 X_1 は、それぞれ投資金額・受け取り金額とします。資産運用は、この円建名目リターンの最適化を目論みます。

4.2 コスト

運用を行う過程で、出て行くキャッシュの流れをコストと定義します。

一定期間後に同じ投資成果が期待できる2つの投資手法があれば、低コストの手法を選択し、キャッシュアウトを減らすことで、より大きなリターンを得る事を目論みます。

4.3 リスク

資産運用では、不確定なリターンが見込まれる資産への投資を行う事があります。その不確実性の程度を表す量として、標準偏差 (standard deviation) を利用します。

4.4 ケリー基準

成長性の評価にケリー基準を用います。資産の期待リターンだけではなく、リスクも加味した成長性を計算し、運用計画に反映させます。

4.5 比較基準の利用

より望ましいキャッシュ・フローの選択を行うために、以上のように、比較対象・比較基準を用います。

5 運用範囲

5.1 運用用資産の定義

保有資産の内、証券会社の口座にて管理・運用を行う資産を運用用資産と定義します。

この規定は運用用資産の運用についての取り決めとします。

5.2 入金規則

証券会社の口座へは、年間36万円を追加入金します。景況感によっては、最大で年間70万円まで追加入金を許可します。

6 ポートフォリオ

ポートフォリオを下記の通り、低リスク資産とリスク資産を定義し、バリュウ平均法を通して、投資額を設計します。

6.1 低リスク資産・リスク資産

国内債券・海外債券(為替ヘッジつき)や、これらに準ずる値動きをする資産を低リスク資産に分類します。

国内外株式・海外債券(為替ヘッジなし)・国内外REIT・コモディティや、これらに準ずる値動きをする資産をこのクラスに分類します。

6.2 バリュウ平均法

バリュウパスに従うように、リスク資産の額を調整します。

6.3 アセット・アロケーション

バリュウパスに従う範囲で、任意に設定できるものとします。原則として、高いリターンが期待できる資産クラスをオーバーウェイトします。

6.4 リバランス方針

6ヶ月に1度の頻度で、リバランスを行います。特に、5月と11月にポートフォリオを見直し、必要があれば変更を加えます。

6.5 ライフステージとポートフォリオ

ライフステージの進行に伴う、資産配分の変更は行いません。

6.6 ポートフォリオの変更

新しい情報に基づき、変更を行った方が望ましいと判断できる場合に上記の各種パラメータを変更できるものとします。

7 投資対象・指針

投資は下記の指針に従い、株式個別銘柄・投資信託への長期投資をメインに行います。ただし、有利な状況では投機的売買も行うこととします。

7.1 株式個別銘柄への投資

ファンダメンタルズを重視したボトムアップアプローチを行います。

対象の株式会社が将来獲得する見込みの利益と比較し、株価が割安である場合に投資をします。

ただし、「地域分散」「業種分散」を意識し、銘柄の偏りを抑えます。

7.2 投資信託への投資

原則として、シンプルで透明性の高い低コストなファンドを志向します。

ただし例外として「投資しにくい資産へ投資しているファンド」や「著しく高いパフォーマンスのファンド」への投資も行う事ができるものとします。

7.3 投機的な売買

有利な売買ができると考えられる場合に、先物・オプション取引や信用取引、FX取引を行います。

ここで有利な売買とは、「値動きに関わる希少性の高い、有利な情報を保持した上での売買」や「統計的有意差が観測できるアノマリーを利用した売買」等を指します。

8 ツールの利用と開発

運用に役立つツールを積極的に利用し、必要であれば作成を行います。

8.1 Bloomberg アプリ

iPhone アプリである bloomberg を利用し、保有銘柄の状況確認を行います。

8.2 仮想証券取引所の利用

自前の web サイト「Kapok の仮想証券取引所」でのシステム開発や運用研究を通して、資産運用のスキルを向上させます。

8.3 Excel シート・マクロ

原則として Microsoft 社のアプリケーションである Excel を利用し、資産の管理や運用判断に関わる集計を行います。Excel 関数や VBA マクロを積極的に活用する事を通し、情報リテラシーを向上させます。

8.4 cern の ROOT・PAW

分析ツールとして、cern の ROOT や PAW を利用します。

9 禁止事項

資産運用を安全に継続するために、下記の取引を禁止します。

9.1 不正な取引

見せ玉・インサイダー取引等の不正な取引を行いません。

9.2 従業員持ち株会

分散投資の視点から望ましくないため、従業員持ち株会には参加しません。

9.3 日本版 401K

制度としての未完成感や、運用の柔軟性に欠ける事への不安から、利用しません。

9.4 オプション売り

大きな損失を出し、運用の継続に重大な支障を来す可能性があるため、オプション売りを行いません。

10 改訂の記録

以下に「Kapokの基本運用方針」の改訂の記録を示します。

10.1 初版

初版は2013年7月20日に作成しました。運用目的、運用範囲、ポートフォリオ、投資対象・指針、禁止事項など、資産運用に関わる骨子を作成しました。

10.2 第2版

第2版は2015年3月12日に作成しました。バリュウ平均法の導入、ツールの利用等の項目を追加しました。